

柵津案内人 俳句ツアーでデビュー 副会長(後藤正次)

◆長野県の「元気づくり支援金」を活用したポケット版の「柵津ガイドブック」の作成と、「柵津案内人」の養成の取り組みについて前号の会報でお知らせいたしました。その案内人のデビューともいえる催しがありました。

五月三十日、「丸山晚霞の柵津十二景を巡って俳句を作ろう」というツアーがあり、二十人の案内人養成講座修了者のうち今回は五人の皆さんが、丸山晚霞先生が図案化された「柵津せんべい」の景勝地を案内しました。主催は「晚霞記念館・四季の森里山を守る会」そして俳句の指導は市の生涯学習でもクラスを持つておられる窪田英治先生でした。



「柵津せんべい」に描かれている図案とすれば、金井河原の虫の声ー長命寺の垂桜ー大日苑の曉鐘ー定津院の春雨ー山陵宮獄の秋月ー御姫尊の紅葉ー榎の木

から応募した二十五名の皆さんで、金井の河原ー長命寺ー大日堂ー定津院ー御姫尊ー榎の木ー晚霞先生のお墓ー羽衣荘ー七都石神社をめぐりました。

雪ー七都石社頭の涼風と、十二景のうち八景の案内でした。

案内人たちはその場所の歴史や晚霞先生とのかかわりなどを懸命に案内し、参加者は配布されたガイドブックを開きながら熱心に耳を傾けていました。

「柵津にはこんないいところがあったんだね。こうした企画でなければ案内はしてもらえないし、とてもよかったです」という声も聞かれ、案内人としての技量はまだまだ未熟でも「案内人たちは「勉強をしてよかったです」と感ずることが出来るツアーでした。

参加者たちは一人二句を考え、窪田先生に講評をしていただきましたが、その窪田先生の詠んだ句を紹介いたします。

定津院の鐘楼で、「今でも十一時三十分には時を知らせる鐘の音が鳴り響く」ということを聴いての一句

田半分植ゑ 鐘撞きに 戻る僧

まちづくり懇談会開催

東御市・柵津地区区長会・柵津地域づくりの会の三者共催による平成29年度「まちづくり懇談会」を開催します。柵津地域の今抱えている問題・課題や柵津を住みよい地域にしていく事についてディスカッションしましょう。

—記—

- 日時：7月6日午後2：00～5：00
 - 場所：柵津公民館 2階講堂
 - 懇談内容：第1部・・・地域から出された要望事項について
第2部・・・柵津地域づくりの活動と御堂・湯の丸の開発・将来像
第3部・・・その他、自由意見
- ◆大勢の皆さまのご参加をお待ちしています。



柏樹院 晚霞眠れる 樹下涼し

木陰に眠る丸山晚霞先生のお墓を訪れて一句



柵津地域づくりの会

No. 9

柵津地域づくりの会
事務局：
東御市柵津917-4
柵津公民館内
TEL:62-0251
FAX:62-0251

平成二十九年 第四回

総会開催(会長 山越淳一)

◆柵津地域づくりの会の総会として四回目を向かい、多くの来賓の皆様方や会員の皆様方にご出席いただき充実した総会となり、ありがとうございました。

◆本会は、柵津地域創生ビジョンを柱に、多くの事業を実施し、各部会がそれぞれの特徴を生かし、地域の皆様に参加できる事業を心掛けて参りました。

特に、「柵津ガイドブック」については、「長野県の元気づくり支援金」を使用し、十数回の検討を重ねて作成、発行し、柵津地区

全戸へ無料配布しました。併せて3人の講師を招いて、ガイドブックを利用した案内人の養成も行い20名を育てました。

ガイドブックの内容は評判が良く、区域外や佐久、上田等、他の市町村の方からの問い合わせも多くあり大変好評です。

また他団体との交流も行い、丸山晚霞記念館、福祉施設ダーチャとの共催でおこなった多くのイベントでの柵津煎餅焼き無料配布は柵津を知ってもらえる良い機会となりました。

新たに、柵津地域づくりの会と同じような考えを持つ、「ネッツ」と言う柵津の将来を背負ってくれる若者のグループとの交流もありました。

柵津小学校との交流事業も多く行い、柵津方言カルタ大会や二年生との柵津煎餅名所めぐりと煎餅焼き体験支援、六年生との意見交



換会では、柵津の将来を一緒に考え、自分は何ができるか考えた積極的な意見もありました。

次に、柵津活性化研究委員会との頃、提案した、御堂地区荒廃地復旧事業も2月によりやく着工しました。

私たちは、ブドウ栽培からワインの醸造、販売までを総合的に考え、柵津が活性化するための大きな柱だと考えています。

そのため、ブドウ栽培者が安心して生活できる環境整備や、共同醸造所の建設



やワインカーヴ(貯蔵庫)の確保、販売方法などについて東御市や信州うえだ農協、柵津地区区長会、地域住民の皆様と共に考えていく必要があります。

新年度は継続事業の他、ガイドマップと案内人を利用した事業や、ワイン産業の検討、他団体との交流を行っていきます。最後になりましたが柵津地域を増やす活性化して安心して暮らせる地域にするために、私たちは努力しますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



第1期工事の御堂全景

満開の中 第十一回柞津城山桜祭り開催 産業経済部会(花岡 保)

◆(一) 紹介
柞津城山の桜祭りは、平成十八年に始められ本年度で第十一回目を迎えました。城山の桜の植樹は柞津地域づくりの会の前身の柞津地区活性化委員会が中心になり平成十一年に行われました。二回追加補植が行われ約八五〇本ほど植えられ、在来の山桜とあわせて「城山千本桜」として多くの皆さんに親しまれています。

◆(二) 紹介
「のろし」用の杉の枝取りを行いました。昨年城山の整備のために地主の方にお断りし、ハヤシドリシジミの餌となる細い柏を残してブナやナラの木の他に太いカシワが業者によって伐採されました。このため桜は遠くからでもよく見られるようになりました。また四月十五日(土)に



枯れた桜の木や枝を切りました。またカシワの伐採木の一部をかたづけました。
(2) 四月二十二日(土)
準備は9時から西宮公民館に集合し、西宮活性化の皆さんに用意していただいた材料を城山の会場に運び設置しました。
十時から約三十分、桜祭り開会式がおこなわれ見ました。満開の桜を皆さんに見てもらおうことができ、大変うれしく思いました。
花岡市長はじめ来賓や一般参加者、総勢百五十名程の方にお越しいただき用意した団子とお茶が二割ほど不足の盛況でした。
頂上からは1kmほど東側に造成中の約二十八ヘクタールの御堂ワイン用ブドウ畑の全貌を良く見ることが出来ました。
開会式後に用意した杉の枝を頂上直下に運んでもらい、また参加者の大半にも頂上にも上ってもらいました。
十一時にドラム缶に詰めた杉の葉に点火してもらい約三〇分「のろし上げ行事」がおこなわれました。



ほぼ無風状態で煙も真っ直ぐに高く上がり、参加者の皆さんに楽しんでもらうことができました。
九〇歳を過ぎた女性がご家族と頂上まで来てくれ大勢の皆さんと眺めの良い景色を見てくれて、とても感激いたしました。

◆(3) 活動
本年も多くの皆さんのご協力により桜祭りを行うことができ感謝申し上げます。近くの桜の名所には上田城や小諸懐古園があります。全国的には天下第一といわれる高遠城の「タカトウコヒガンザクラ」(二種類)や日本一と称される青森県弘前市の「弘前城の桜」



(多種類) が有名です。高遠は弱った桜の幹の周囲を根元より高さ一メートルくらいまで包んだ土で十年くらい保護し新しい根をマンガロープのように出させたり、弘前はりんご栽培の技術で桜を保護育成するなど、ともに保護管理育成におおいに尽力されてきたそうです。
城山の桜は徐々に知られ毎年見に来てくれる人が多くなっておりますが、厳しい環境の中で少しづつ育ってきております。病気のため枝や木自身が枯れるものや、テング果病(枝がボヤボヤになる病気でソメイヨシノに多いらしい)などのため弱っているものがあります。

ハヤシドリシジミ救出作戦に参加 教育文化部会(別府英宣)

◆四月十八日(火)
柞津小学校三年生の「ハヤシドリシジミの飼育学習」の一環で柞津城山へ採卵に行きました。一週間前に計画されていたものが雨で延期になり、この日になったのです。

毎年下草刈り、ツル切の管理のほかに補植などが検討の時期に来ているのかとも思います。
花岡敏道さんを先生として、柞津地域づくりの会の協力を得て実行されました。卵はたいへん小さく0.8mm程です。探すのが大変です。若いカシワの枝に一〜二個ずつ生み付けられています。大勢の目で探すことで見つける確率を高めます。

には飽きてしまう子もいますが、探し出したのは大人でも三個程度で、全く見つけられなかった子どもも多くいました。それでも一時間半ほどで約五十個の卵を採ることが出来ました。
持ち帰って、幼虫を飼育し、六月には成虫になったチョウをここに放蝶します。



◆五月二十四日(水) 西宮の五十嵐江利子さんが主催する「だれでも食堂」が開かれました。
「少子高齢化の中で、子どもからお年寄りまでが一緒に食事を取りながら交流し、地域の人が仲良く、元気になってほしい」という願いを込めて、誰でも立ち寄りやすい「だれでも食堂」をはじめました。
現在のところ五十嵐さんと四人の仲間(女性三、男性一)で始めてボランティア連絡協議会に加盟しています。「毎月一回、最終週の夜に柞津公民館の調理室と和室を借りて行っています。予約制、会費制(三〇〇円〜四〇〇円)でおかず等を購入し、ご飯は会で用意して作っています。食材等の寄付も受け付けます。ボランティアの人数が増えれば子どもに絵本の読み

「ふゆみのだげぶじん」
だれでも食堂! 始めました
◆五月二十四日(水) 西宮の五十嵐江利子さんが主催する「だれでも食堂」が開かれました。
「少子高齢化の中で、子どもからお年寄りまでが一緒に食事を取りながら交流し、地域の人が仲良く、元気になってほしい」という願いを込めて、誰でも立ち寄りやすい「だれでも食堂」をはじめました。
現在のところ五十嵐さんと四人の仲間(女性三、男性一)で始めてボランティア連絡協議会に加盟しています。「毎月一回、最終週の夜に柞津公民館の調理室と和室を借りて行っています。予約制、会費制(三〇〇円〜四〇〇円)でおかず等を購入し、ご飯は会で用意して作っています。食材等の寄付も受け付けます。ボランティアの人数が増えれば子どもに絵本の読み

問い合わせ先
五十嵐江利子
TEL. 090-9978-9280

◆四月十八日(火)
柞津小学校三年生の「ハヤシドリシジミの飼育学習」の一環で柞津城山へ採卵に行きました。一週間前に計画されていたものが雨で延期になり、この日になったのです。
明け方まで雨でしたが、良く晴れて暑い日になり汗ばむ程で、子どもたちも元気はつらつ楽しそうでした。
実は、昨年末に城山の雑木は伐採され、ハヤシドリシジミの食草であるカシワの木もたくさん切られてしまいました。生み付けられた卵はこのままでは孵化した時に食べ物にありつけません。そこで切られたカシワから卵を探し、救出するという作戦を立てたということです。



この頃には切り株から萌芽したカシワの新葉が茂るようになり、今年卵を生む環境が良くなるでしょう。
来年以降、チョウがたくさん見られることを期待しています。

